



AAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA Dorado

たったひとつの道具があるだけで仕事が楽になるってことありますよお料理で使う包丁も刃の切れ味がよく切れるのは当然だし包丁の持ち手も握りやすいのがいい物うち包丁が丸くさ

アマゾン源流域に
潜む怪魚

黄金に輝くドラド!

Dorado



ダミートロックは、サイエンス、
芸術的手腕、写真や
教授の技能を使フライ
フィッシングにおける
ひとつの時代を築き上げた。
ニルフ・フィッシュャーマンを
自称するフィットロックは
トラウトだけでバス、
カーブ、サンフ
シユもこよなく愛す。
自然保護にも精力的に活
動をつづける彼はフライフィッシ
ン

杉坂研治 | レポート

たったひとつの道具があるだけで仕事が楽になるってことありますよお料理で使う包丁も刃の切れ味がよく切れるのは当然だし包丁の持ち手も握りやすいのがいい物うち包丁が丸くさ

ダミーどどの魚にも特別な質みたいなのがあるんだ自分の

ドラドという魚のことを知ったのは、岡高健氏の「オーバー」を読んだからだ。かの黄金郷。エルドラド。と同じドラドという名を持つこの魚は、全身が黄金に輝き、熱帯地域に生息するがアブラヒンがあり、まるでサーモンのような魚である。

この美しさに惹かれることはもちろんだが、そのフジイトも強烈そのもの。アルゼンチンでは「パラナの虎」と呼ばれ、ブラジルでは「川の虎」と呼ばれるほど凄く、驚くほどの闘争心、そして強烈なパワー、さらには、何度も繰り返す大ジャンプ！

学生時代に「オーバー」を読み、憧れの魚となっていたドラドは、生涯で一度でもいいから釣ってみたい！と思っていた魚だった。そこへ、ブラジルの友人から主語が入り、パンタナルやパラナ川のドラドは知っていると聞かされた。アマゾン川の源流にドラドが生息していることが発見された。しかも、日本の溪流と同じような深瀬の川で、溪流魚を釣る感覚で川に立ち込み巨大なドラドが釣れる地域がある、というのだ。

アマゾン川に生息するドラドは希少であり、大型のナイズも減少傾向にあるという。さらに、いままで、私の知っているドラドの釣りは、すべてが

ボートからの釣りであり、湿原や大河川、ダム下などであった。しかし今回の話では、日本にもありそうな本流や源流の溪相で、サーモンやトラウトのように釣ることができるということには、いままでのドラド釣りの常識を覆された思いだった。

この情報をくれたブラジルの友人に、アマゾン川にロッジを持つロドリゴ・サレスを紹介してもらい彼に詳しい話を聞くと、この希少な条件と魚を守るために、キャッチ&リリース、フライフィッシング・オンリーというレギュレーションがあるとのこと。まずは保護しながら釣りを来しようというのが、そこにロッジを建設した理由のようだった。

「新治さん、急いで行きましょう！アメリカでもドラドはブームになり始めています。多くの人が入る前に、急いで行きましょう。ロッジはオープンしてまだ5年。あまり知られていないいまがチャンスです！」

そんな誘いから、アマゾン川のドラド釣りへ行くこととなった。アマゾン川といえばブラジルをイメージするのだが、向かったのはボリビア。上流側から現地へ入るコースが最短なのだ。アメリカのマイアミ経由で飛行機を乗り継ぎ、ボリビアはサン

日源流域は、日曜の夕方成田を出発して火曜の昼には現地に着き、釣りができてしまうというには驚きだ。私たちが今回訪れた川は、セクレ川の上流で合流するアスンタ川ともうひとつの支流にあるブルマ川。どちらもコッジを拠点とした釣りになる。最初に訪れたのはアスンタ川にあるロッジ「アスンタ・ロッジ」。アマゾンのジャングルということもあり、生活環

たったひとつの道具①があるだけで仕事が楽しくなるってこと②ありますよね料理で③いえば④まな板の上でよく切れるのは⑤当たり前だ



たったひとつの道具①があるだけで仕事が楽しくなるってこと②ありますよね料理で③いえば④まな板の上でよく切れるのは⑤当たり前だ

AAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA Dorado

ダミーメインとなるフライパターン



たったひとつの道具①があるだけで仕事が楽しくなるってこと②ありますよね料理で③いえば④まな板の上でよく切れるのは⑤当たり前だ

たったひとつの道具①があるだけで仕事が楽しくなるってこと②ありますよね料理で③いえば④まな板の上でよく切れるのは⑤当たり前だ

境は期待していなかったのだが、到着したコッジを見て驚いた。素晴らしい建物がないジャングルのまっただ中に建っているのだ！ 世界各国の料理をつくるコックから、ベッドメイキング、掃除、洗濯まで行ってくれるメイドさんたちまで、コッジのサービスは流石なものでした。料理はハイレベルな西洋料理のコースで、アペタイザーから始まり、スープ、肉料理もしくは魚料理、デザートまで出てくる。お酒はワインがメインでビール、ウイスキー、ウォッカ、各種カクテル……毎日飲み放題だった。

アスンタ川で3日釣りをした私は、飛行機で20分離れたブルマ川のロッジ「ブルマ・ロッジ」へ移動。ここも、アスンタ川のロッジと同様にハイレベルなロッジで、食事もサービスマンも最高のロケーションだった。さて、釣りの話に戻すと、まずは私が最初に向かったのはアスンタ川。上流で少し海りがある川だが、日本の中流河川によく似た深瀬から、深谷に挟まれた溪流といった様相まで、さまざまなポイントが楽しめた。ブルマ川の深瀬は、アスンタ川より大岩が多く、日本の溪流を思わせる。水は透明度が増し、ドラドの回遊や流れ込み時に定位している姿が見え、サイトフィッシングで狙う釣りもできるのだ。流れ込み時で1匹を越える巨大ドラドを見ながら狙って行く釣りは、ドキドキ感動ものだ！

釣りはガイドとボートの操船者の？



ダミーの魚にも特別な質みた
なものがあつた
自分のホームウォーターを

たったひとつの道具があるだけで仕事は楽しくなるってことありますよ料理でいえば包丁まな板の組み合わせでよく切れるのは当たり前だ



たったひとつの道具があるだけで仕事は楽しくなるってことありますよ料理でいえば包丁まな板の組み合わせでよく切れるのは当たり前だ

AAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA Dorado

の付近など、トラウトが潜んでいそうなのポイントで、同じようにドラドも潜む。釣り方としては、大型のフライトをとかく早く引く。フロートイングラインで水面直下を、猛スピードで引き、小魚が逃げていくイメージでアビールしていくのだ。ドラドがポイントにいれば、強烈な水しぶきが上がり、一気にフライをひたたくていく。この心臓に熱いほどの音と水しぶき、それに、手元を伝わる衝撃は強烈である。

ガンドと一緒に溪流を釣り上がっていくと、ときおりドラドのハンライングであることもある。広いプールの流れ出し、遠浅でマラマの姿は見えていなく、さきほどのサバロという魚がのんびりと泳ぎ、石に付いたコケを食べている姿がいくつも見えた。平和な感じのんびりとした状況であった。すると突然、10匹近いドラドの群れ、しかも10匹を越えるような数で、猛スピードでサバロの群れに突進してきて、一気に襲いかかるのだ！ 必死になって逃げ惑うサバロ、あちらこちらでドボンと大きな音を立てて水しぶきが上がる。その後、ドラドは、押し寄せた波が引くかのごとく、サーッと流れ込み方向の深場へ泳ぎ去っていくのだ。一瞬の出来事だった。この光景は、まるでシヤチが集団でエサをとるかのごとく、見事な連撃プレイ、驚いた。

かと思えば、大岩がごろごろしたイワナでも居そうなプールの流れ込み、流心の白泡の橋が流れていて、その横には、巨大なゴールドに輝く大きな魚体が見える。じつと動かないのでやる気のない魚なのか？とも思えたが、すかさずフライをキャスト。フライをゆかにプレゼンテーションさせ、フライを少し上流から白泡のなかをナチニラルに流下させる。

フライを流れて乗せてドラドの前まで流し込み、そこで、一気にリトリブ！ 逃げる小魚を演出してみると、巨大な黄金の魚体が反転しフライに襲いかかった！

「ドバッ！」

重要なのはフッキングだ。テンションをしっかりと掛けて、強いフッキングが必要で、ロッドでフッキングをしてしまつたら全滅してしまうので要注意。ドラドの口はとて硬い。しっかりとフッキングさえできれば、後はジャンプに耐え、走りについて行き、全力で川岸を走る。とにかくこの魚は凄い。飛んで飛んで飛びまくる！ この光景は見事で、美しい。感動ものだ。

このドラドは、とくにゴールドの輝きが強くて美しい。所札されて向もない状態なので、魚影が濃く大型も多い。サイズは小さくても、一口10匹以上はヒットしてきて楽しく釣りができる。

名がつけに付き添って来て、移動にはボートを使用する。私たちが行った7月後半は現地では冬、それでも水温は23度前後で、ウニードイングシューズに水切りのよいフラットパンツという南海のフラットを釣り歩くスタイルと同じ格好で気持ちがいい。ロッドは、8番前後で、ラインはフロートイングライン、リーダーは30cm以上の物を使用する。そして、テノベントには40ポンド以上のワイヤーが必要となる。

このドラドは強烈で、30ポンドのフライングだと簡単に切られてしまう大物まで潜んでいる。

使用するフライは、全長15、20cmほどの大型ストリーマー。とくに、ヘッド部分にポリウムを持たせたタイプがよく、フックは「MCBOOST」がベスト。

ポイントは、溪流でトラウトを狙うポイントとほぼ同じで、流れ込みの速い流れの両サイド、河岸のブッシュ



たったひとつの道具があるだけで仕事は楽しくなるってことありますよ料理でいえば包丁まな板の組み合わせでよく切れるのは当たり前だ